

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 18 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770121

研究課題名(和文)アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』諸写本における異文と記号の研究

研究課題名(英文)Study of variants and signs in some manuscripts of the Mystere de la Passion of Arnoul Greban

研究代表者

黒岩 卓(Kuroiwa, Taku)

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：70569904

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』の複数の写本を転写してそれらに見られる孤立詩行や本文の異同等を検討し、各写本の作品伝承上の位置づけや相互の関係について考察を行った。その結果、とくにG写本の作品伝承上の特権的な位置づけを明らかにすることができた。さらに同作品と『アラス受難劇』を比較し、前者における韻の洗練を明らかにした。これらの成果は日本・フランスの諸大学において発表され、多くの中世・16世紀文学・演劇研究者からの意見を得た。また副次的に中世テキストの日本語訳に関する諸問題についての問題設定を行った。加えてフランスの二名の中世研究者の講演会を企画し、日仏の研究者間の交流を促進した。

研究成果の概要(英文)：After transcribing some manuscripts of the Mystere de la Passion of Arnoul Greban, I analyzed isolated lines, indications in margins and textual variants of these documents and tried to define their positions in the transmission of the play just as their relationship. As a significant result, I noted the importance of the G manuscript in the textual transmission of this work. Subsequently, I compared this work of Greban and the Passion d'Arras of Eustache Mercade to show the refinement of rhymes made by Greban. I presented the results of these research in Japanese and French Universities and could receive many remarks from specialists of Medieval and Renaissance Literature and Theater. Furthermore, I pointed out some problematics concerning the translation of Medieval French Literature in Japanese. Also, I invited two French researchers of Medieval Literature and organized their conferences at Tokyo and Sendai, so as to promote the exchange between French and Japanese researchers.

研究分野：中世フランス文学

キーワード：仏文学 文献学 演劇学 詩作技巧 写本学 翻訳学

### 1. 研究開始当初の背景

現代社会に比べれば中世文明が絶えざる窮乏状態にあり、そこにおいて精神的・物質的資源は常にリサイクルの対象とされなければならなかった。宗教的な劇作品一つをとっても、それが複数の都市共同体で上演されるのみならず、神学者や王侯の個人的読書といった目的のために再利用されることは当然の理であった。このプロセスの中で、写本間の異文や上演用の指示を検討することで、作品が一つ一つの状況に順応していく過程を描き出すことが出来るのではないかと報告者は考えた。

一方、中世末の演劇における中心的ジャンルである聖史劇はその多くが長大(数万行規模)であり、また唯一の写本・印刷本で残されていることが多いことから、異文の現われ方や写本に記された上演上の指示について複数の写本・印刷本を横断した研究がおこなわれることは極めて稀であった。だが報告者が調査対象とするアルヌール・グレバンの『受難の聖史劇』は例外的に多くの写本(11写本)で保存されており、ある劇作品が社会の中で変容していくあり様を記述する上で格好のコーパスを提供している。

本研究課題は、応募者のこれまでの写本学的調査と韻文技巧研究に写本間の異文の研究を組み合わせることで、演劇作品伝承におけるテキストの生成を有機的に記述し、演劇作品の伝承・受容過程を詳細に描き出そうとする試みとして位置づけられる。

### 2. 研究の目的

本研究課題で報告者は、アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』各写本間の異文を分析し、現在まで包括的にはなされていない『受難の聖史劇』諸写本の相関関係の調査を行うことを目的とする。同時に上演用写本にみられる記号などの調査を行ない、それらが実際の上演においてどのようにテキストとして処理されたかについての諸々の可能性を検証する。この二つの作業を通じ、演劇作品が伝承されていく過程でテキストの追加や削除などが行なわれていくプロセスを提示し、もって中世文明において演劇作品が多様な受容形態に適應していくあり様を示す。さらに補助的作業として作者グレバンの研究、中世末の韻文技巧研究、『受難の聖史劇』の日本語訳が行なわれる。

### 3. 研究の方法

本研究課題は、写本の転写および他写本との比較検討という性質から、長期の研究期間を必要とする。従って四年間の研究期間を設定し、初めに写本の転写および確認作業に集中し、その後具体的な写本間の比較に移ることを期する。

具体的には主に複写を利用してのテキスト転写、転写上不明な点の確認及び写本学的調査のためフィールドワーク、そして他の研

究者との情報交換という三要素が、本課題の基礎的な方法を形作る。これまでに培ってきたヨーロッパ諸研究者との情報網が活用されるが、日本国内の他の言語圏・時代の演劇研究者とのネットワーク構築にも力を注ぐ。また日本人研究者と海外研究者のネットワーク作りにも着手するべく、海外研究者を招いた講演会などの開催を積極的に行なう。

### 4. 研究成果

(1) 主要な課題である写本の調査については、すでに転写を行ったH写本のほか、本研究課題においてB写本、F写本、G写本の「第一日目」相当分の転写を行った。その中で、とくにG写本の孤立詩行(周囲の詩行と韻を踏まない詩行)の少なさを、また推定されるその作成年代、写本中で示されている音楽の指示などから、この写本が作者アルヌール・グレバンに極めて近いところで作成された写本と考え得ることを示した。またそれらの写本の転写によって明らかになった孤立詩行の分布の分析を通じて、各写本間の伝承上の相関関係について理解を深めることができた。さらに各写本の欄外記述・写生字や作者の名前の有無などを調査し、それらを上述の調査と組み合わせることで、各写本の伝承上の位置づけをより明確にすることができた。

(2) グレバン作『受難の聖史劇』の詩作技巧研究を行い、とくにその先行作品である『アラス受難劇』との韻文構造上の相違について理解を深めた。その結果、グレバンが様々な点で『アラス受難劇』の韻文構造上の原理を引き継ぎつつも、とくにその韻の選択において『アラス受難劇』よりもより意味上の連関を重視していることを明らかにした。

(3) 今後『受難の聖史劇』を日本において紹介する上で必須となる日本語訳作成の上での参考とするために、中世フランス語テキストの日本語訳の例について検討を行った。なかでも中世フランス文学最初期の傑作とされる『ローランの歌』の戦前・戦後の複数の訳の検討を行い、中世キリスト教を背景とする作品が日本語に移される際に生じるさまざまな問題を明らかにすることができた。

(4) 海外研究者の招聘として、グルノーブル第三大学(現グルノーブル=アルプ大学)のエステル・ドゥーデ教授、さらにパリ=ソルボンヌ大学のジャクリヌ・セルキリーニ=トゥーレ名誉教授を日本に招き、それぞれ東京・仙台の二か所において講演会を企画した。また両研究者と日本の研究者との交流を促進することができた。

なお(1)~(3)の研究成果については、積極的に研究発表を行うことで、それらの成果を国内外の中世研究者たちと共有することに努めた。その過程で、報告者の諸考察が概ね

好意的に受け入れられたことを確認できたことは幸いであった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

Taku Kuroiwa, « Les rimes dans la *Passion d'Arras* et dans le *Mystère de la Passion d'Arnoul Gréban* : un essai de contribution aux études comparatives », *Mélanges offerts à Jacqueline Cerquiglini-Toulet*, H. Champion, 査読なし, 2015, pp. 405-419.

[学会発表](計12件)

Taku Kuroiwa, « Notes sur la réception de la *Chanson de Roland* au Japon : un essai de comparaison des deux premières traductions japonaises », Journée internationale d'études et de dialogues, « Le spectacle de l'Autre », 2016年10月7日, グルノーブル=アルプ大学, グルノーブル(フランス).

Taku Kuroiwa, « Le *Mystère de la Passion d'Arnoul Gréban* et la versification : réflexions sur la transmission et la composition de l'oeuvre », Séminaire « Normes et usages, histoire de la langue française » (dir. Corinne Denoyelle), 2016年10月6日, グルノーブル=アルプ大学(招待講演), グルノーブル(フランス).

Taku KUROIWA, « Les triolets dans les manuscrits du *Mystère de la Passion d'Arnoul Gréban* (la *Creacion du Monde* et la *Première Journée*). Transmission textuelle et variations formelles », Séminaire « Le Printemps des Poètes » (dir. Sylvie Lefèvre), 2016年5月13日, パリ=ソルボンヌ大学(招待講演), パリ(フランス).

Jacqueline Cerquiglini-Toulet, « Le jeu des formes dans la poésie de Villon : rimes et rythme », Conférence de Jacqueline Cerquiglini-Toulet, 2016年4月15日, 東北大学(仙台).

Jacqueline Cerquiglini-Toulet, « Donner ce qu'on n'a pas. Les gestes paradoxaux du *Testament* de François Villon », Conférence de Jacqueline Cerquiglini-Toulet, 2016年4月12日, 早稲田大学(東京).

黒岩卓「アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』諸写本における孤立詩行」, 同志社大学ロマンス語文献学研究会 2015年度第3回研究会, 2016年2月29日, 同志社大学(京都)(招待講演).

エステル・ドゥーデ「地域遺産の考古学と再生: 中世フランス演劇の例」, 「エステル・ドゥーデ教授講演会」, 2015年12月17日, 東北大学(仙台).

エステル・ドゥーデ「ヨーロッパにおけるアレゴリー演劇の横断的歴史のために(十五・十六世紀)」, 「エステル・ドゥーデ教授講演会」, 2015年12月14日, 早稲田大学(東京).

黒岩卓「無名性と中世末の劇テキスト伝承 アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』の例」, シンポジウム「無名な書き手のエクリチュール」, 2014年12月21日, 岩手大学(岩手)(日仏両言語による発表).

黒岩卓「アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』G写本における欄外記述について」, シンポジウム「残るものと消え去るもの 十七世紀以前におけるフランス語劇テキストの制作・上演・伝承」, 2014年7月25日, 東北大学(仙台).

黒岩卓「アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』諸写本におけるテキストの異同: G写本およびH写本の例」, 「早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究会」第十五回研究会, 2014年4月19日, 早稲田大学(東京)(招待講演).

黒岩卓「十五・十六世紀の仏語劇作品における韻文形式と作品伝承について」, 「国際日本学共同研究古典テキスト校訂分科会」第四回研究会, 2013年7月20日, 早稲田大学(東京)(招待講演).

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

黒岩 卓 (Kuroiwa, Taku)  
東北大学大学院文学研究科准教授  
研究者番号：70569904

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

( )